

鳥取大学工学部長候補者届出書

工学部長候補者選挙管理委員会

立候補者氏名	丹羽 幹	印	届出月日	平成18年12月22日	
自薦・他薦の別	自薦 ○他薦	推薦人氏名	江坂享男	小西久俊	伊藤敏幸
			坂口裕樹		
<p>所信文及び推薦人の推薦文</p> <p>下記の所信を表明された丹羽幹教授を、次期工学部長候補者に推薦いたします。</p>					
教育	<p>JABEEを学科に強制しない。これは、教育の軽視を言っているのではなく、アメリカ流の管理教育に必ずしも賛成できないといっているのである。JABEEを実施しない場合にはそれにかわる実効性のある教育システムの実施を求める。</p>				
入試	<p>A0入試のような不明瞭な入試を実行しない。推薦入学についても見直しを進める。現行の教育体制を変えない限り、入試体制を小細工しても良い教育は実現できない。このままでは、授業についていけない学生がふえるばかりである。</p>				
研究	<p>工学部からCOEに選ばれるような研究を出せるようにする。そのために、各自がばらばらにやっている研究をできるだけまとめ、一つのテーマに5-10人の教員が関与するようなテーマをいくつか作り、全国にアピールできる体制を構築する。</p>				
地域研究	<p>研究は、世界に発信できる成果を求めていくのが本来の姿であり、地域に限定した研究にこだわる必要はない。研究する過程で、鳥取、中四国、西日本などの地域と連携できるものであれば行っていけば良いのであって、むやみに地域を誇張するのは間違いであると思っている。</p>				
部局化	<p>可及的すみやかに部局化を実施する。もうすでにかなり遅延した状態にある。これ以上遅れると工学部は全国の（国立）大学の中で孤立する。</p>				
博士後期課程	<p>専攻ごとの定員と実際入学する学生数にかなりおおきな格差のある状態を解消するよう心がける。具体的には、定員の返還も一つの選択肢であり、また可能であれば定員の付け替えを検討する。</p>				
管理	<p>現行の管理体制が有効に働いているかどうかまったくわからない。それよりも、教員の任期制のようなシステムを構築した方がわかりやすい。もともとエキスパートのための場である大学に所属しているかぎり、それ相応の任務は不可欠である。</p>				
総論	<p>工学部の最近の傾向から痛感することは、学科による意見の相違が著しいことである。このため工学部を一つにまとめることは容易でなく、これが工学部の改革を妨げている。いまのままでは、何をやってもなかなかまとまらない状況が今後も続くと思われる。現実的な対応は、学科あるいは専攻ごとの意志を尊重していくことであり、この結果対応に差が出てもやむをえないと割り切ることである。</p>				